

滑川市の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (2年1月1日)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 30年度の 人件費率
元年度	人 33,284	千円 12,806,109	千円 781,910	千円 1,417,538	% 11.1	% 11.3

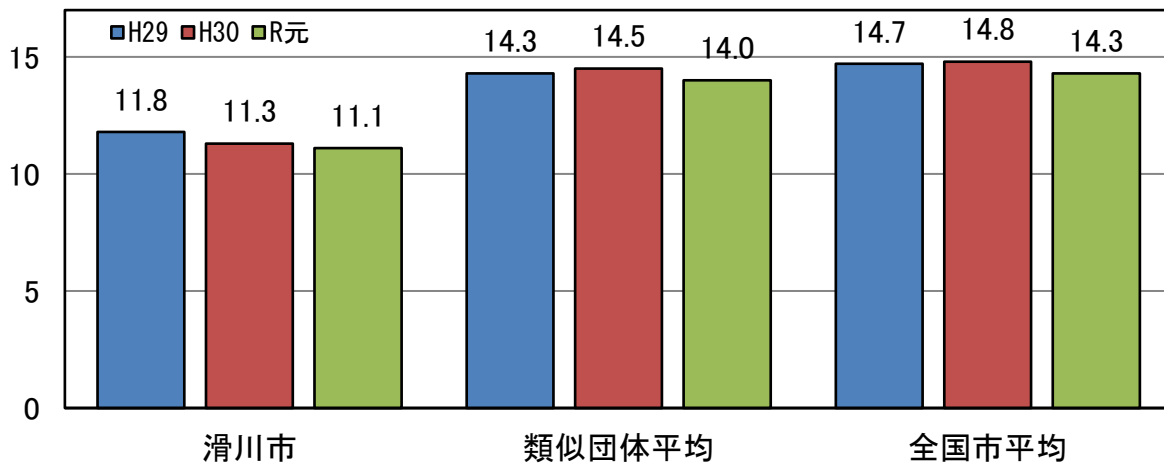
(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費				(参考) 一人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 一人当たり 給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
元年度	人 179	千円 582,160	千円 97,041	千円 223,251	千円 902,452	千円 5,042	千円 5,793

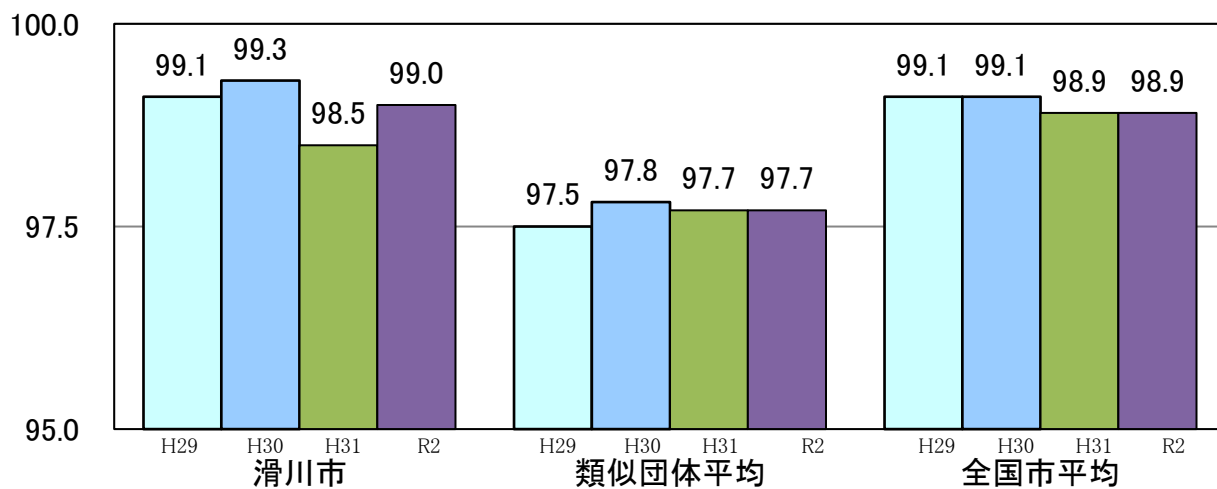
(注) 1 職員手当には退職手当を含みません。
2 職員数は、平成31年4月1日現在の人数です。

(3) 人件費率とラスパイレス指数の状況

・人件費率 (%)



・ラスパイレス指数 (各年4月1日現在)



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数です。
- 2 () 書きの数値は、地域手当補正後ラスパイレス指数を指します。地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数です。
 (補正前のラスパイレス指数×(1+当該団体の地域手当支給率) / (1+国の指定基準に基づく地域手当支給率) により算出。)
- 3 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものです。
- ※ 令和2年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べて1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

①～③のいずれにも該当しません。

(4) 給与改定の状況 滑川市は人事委員会を設置していません。

区分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)		
2年度	-	-	-	-	-	-

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与額です。

②特別給（期末・勤勉手当）

区分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数 月
	民間の給与 割合 A	公務員の 支給月 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)		
2年度	-	-	-	-	-	4.45

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数です。

(5) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされています。

①給料表の見直し

実施 未実施]
 実施の内容（平均引上げ率、実施（実施予定）時期、経過措置の有無等具体的な内容）

(給料表の改定実施時期) 平成27年4月1日

(内容) 一般行政職の給料表について、国の見直し内容に準じて平均2%引下げ。激変緩和のため、3年間（平成30年3月31日まで）の経過措置（現給保障）を実施しています。他の給料表についても、国の見直し内容に準じて見直しを実施しています。

②地域手当の見直し

支給していません。

③その他の見直し内容

管理職員特別勤務手当について、国と同様の見直しを実施しています。
 （平成27年4月1日実施）

(6) 特記事項

特にありません。

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（令和2年4月1日現在）

①一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
滑川市	歳 40.8	円 300,500	円 335,074	円 324,186
県	歳 43.8	円 327,001	円 397,070	円 356,148
国	歳 43.2	円 327,564	—	円 408,868
類似団体	歳 42.2	円 314,534	円 371,816	円 342,458

②技能労務職

区分	公務員					民間			参考 A/B
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額(A)	平均給与月額 (国比較ベース)	対応する民間の 類似施設	平均年齢	平均給与月額(B)	
滑川市	歳 51.1	人 12	円 233,000	円 241,617	円 235,333	—	—	—	—
うち 学校給食員	歳 47.3	人 8	円 211,300	円 215,900	円 211,300	調理士	歳 43.7	円 238,100	0.91
県	歳 57.7	人 20	円 286,698	円 311,148	円 293,423	—	—	—	—
国	歳 50.9	人 2,319	円 287,283	—	円 328,862	—	—	—	—
類似団体	歳 51.8	人 16	円 299,445	円 326,493	円 311,455	—	—	—	—

区分	参 考		
	年収ベース（試算値）の比較		
	公務員(C)	民間(D)	C/D
滑川市	—	—	—
うち 学校給食員	円 3,336,800	円 3,292,200	1.01

- ※ 1 民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用しています。（平成29～31年の3ケ年平均）
- ※ 2 技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではありません。
- ※ 3 年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値です。
- (注) 1 「平均給料月額」とは、令和2年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均です。
- 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、住居手当、時間外勤務手当などの諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものです。
また、「平均給与月額（国比較ベース）」は、比較のため、国家公務員と同じベース（＝時間外勤務手当等を除いたもの）で算出しています。

(2) 職員の初任給の状況（令和2年4月1日現在）

区分		滑川市	県	国
		初任給	初任給	初任給
一般 行政職	大学卒	182,200 円	188,700 円	182,200 円
	高校卒	150,600 円	154,900 円	150,600 円
技能 労務職	高校卒	147,900 円	147,900 円	—
	中学卒	—	—	—

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（令和2年4月1日現在）

区分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大学卒	258,400 円	361,300 円	400,300 円	410,800 円
	高校卒	—	*	366,900 円	*
技能労務職	高校卒	—	—	—	*
	中学卒	—	—	—	*

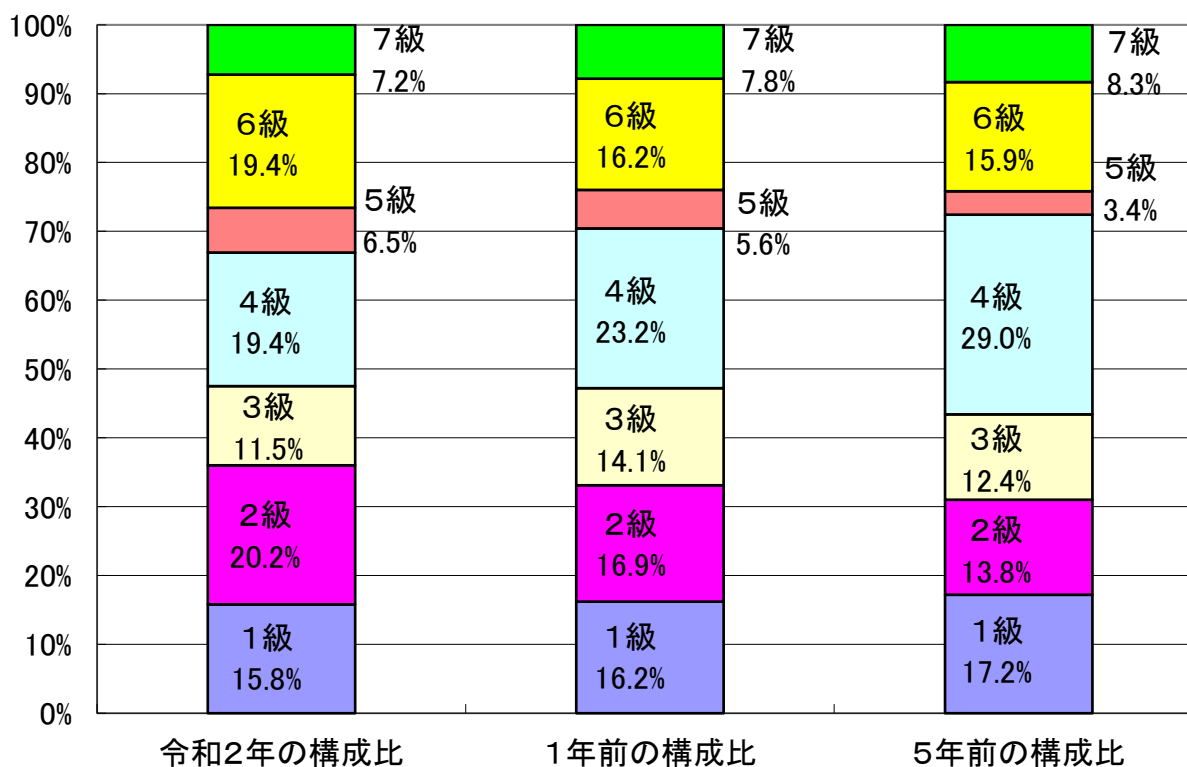
(注) 個人情報保護の観点から、対象となる職員が1人で個人情報が特定されるおそれがある場合については、平均給与月額の欄を「*」としています。

3 一般行政職の級別職員数等の状況（国の給与実態調査の基準による）

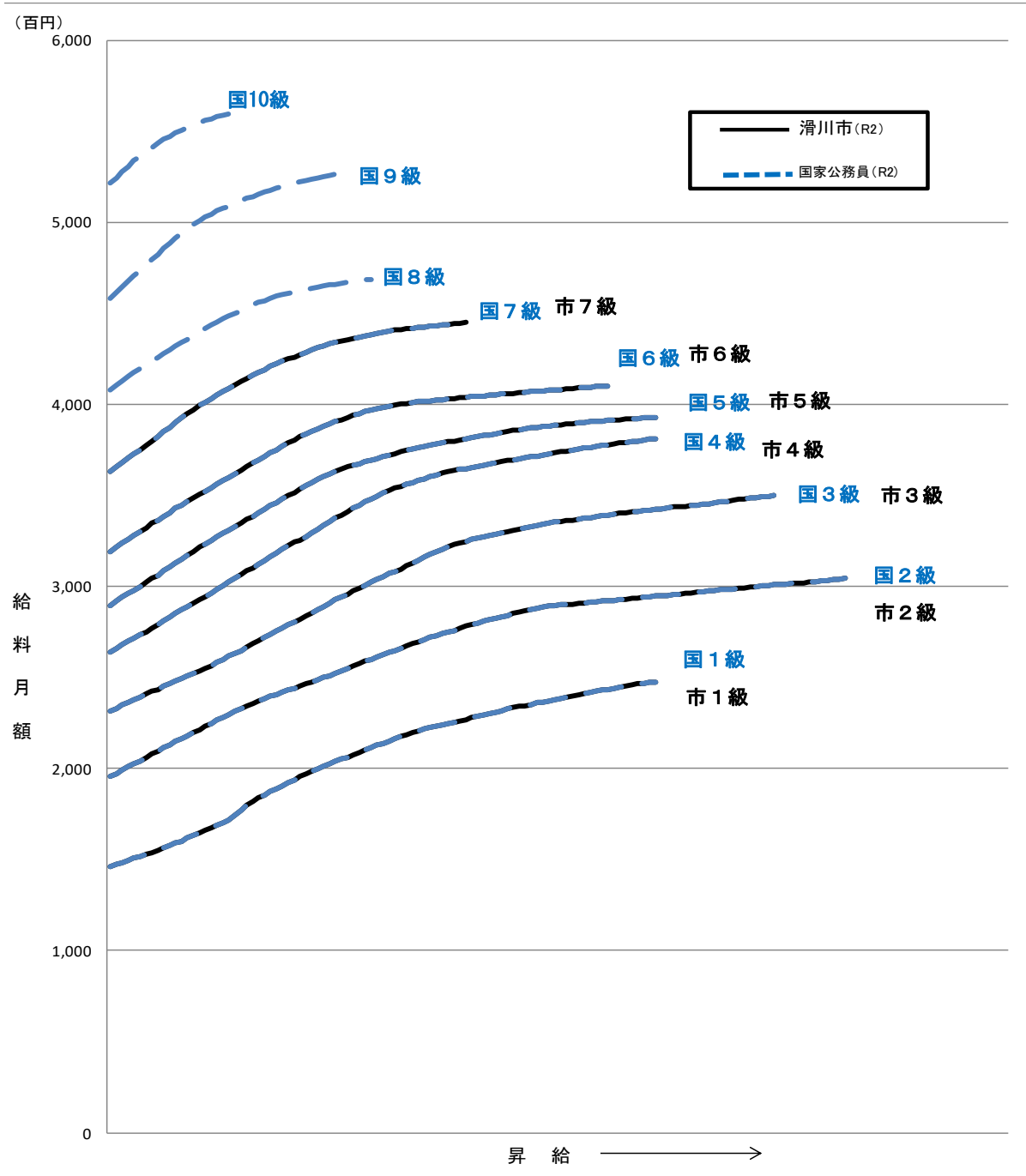
(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（令和2年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
1級	主事・技師	22人	15.8%	146,100円	247,600円
2級	主事・技師	28人	20.2%	195,500円	304,200円
3級	主任	16人	11.5%	231,500円	350,000円
4級	係長・主査・主任	27人	19.4%	264,200円	381,000円
5級	課長補佐	9人	6.5%	289,700円	393,000円
6級	課長・主幹	27人	19.4%	319,200円	410,200円
7級	部長・理事・次長・参事	10人	7.2%	362,900円	444,900円

(注) 1 滑川市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。



(2) 国との給料表カーブ比較表（行政職（一））（令和2年4月1日現在）



(3) 昇給への人事評価の活用状況（滑川市）

令和2年4月2日から令和3年4月1日 までにおける運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している昇給区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分	昇給可能な 区分	昇給実績が ある区分
上位、標準、下位の区分	○	○	○	○
上位、標準の区分				
標準、下位の区分				
標準の区分のみ（一律）				
ロ. 人事評価を実施していない				
活用予定時期				

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

滑 川 市	県	国
1人当たり平均支給額 (元年度) 1,412 千円	1人当たり平均支給額 (元年度) 1,677 千円	—
(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.90 月分 (1.45) 月分 (0.90) 月分	(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.90 月分 (1.45) 月分 (0.90) 月分	(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.90 月分 (1.45) 月分 (0.90) 月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 15～25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合です。

○勤勉手当への人事評価の活用状況 (滑川市)

令和2年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率
上位、標準、下位の成績率	○	○	○	○
上位、標準の成績率				
標準、下位の成績率				
標準の成績率のみ (一律)				
ロ. 人事評価を実施していない				
活用予定時期				

(2) 退職手当 (令和2年4月1日現在)

滑 川 市			国		
(支給率)	自己都合	定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分	勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分
最高限度額	47.709 月分	47.709 月分	最高限度額	47.709 月分	47.709 月分
			その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (割増率2～45%)	
1人当たり平均支給額	3,017 千円	23,186 千円			

(注) 1 本市は、県下の市町村で組織されている市町村総合事務組合に加入しており、退職手当事務は、当該組合で処理しています。
2 退職手当の1人当たり平均支給額は、元年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

(3) 特殊勤務手当 (令和2年4月1日現在)

支給実績 (元年度決算)	81 千円			
支給職員1人当たり平均支給年額 (元年度決算)	5,400 円			
職員全体に占める手当支給職員の割合 (元年度)	7.1 %			
手当の種類 (手当数)	5			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (元年度決算)	左記職員に対する支給単価
市税等賦課徴収事務手当	市税等賦課徴収事務従事者	賦課徴収、滞納処分事務	81,000 円	日額 200 円
救急傷病者搬送業務手当	救急傷病者搬送業務従事者	搬送業務	(県東部消防組合で支出)	勤務1回 150 円 " (救急救命士) 300 円
感染症防疫業務手当	家屋、物件等の消毒処理、患者の援護従事者	家屋、物件等の消毒、患者の救護	0 円	日額 300 円
		新型コロナウイルス感染症に係るもので、市長が別に定めたもの	(県東部消防組合で支出)	日額 3,000 円 " (接触又は長時間) 日額 4,000 円
行旅病死人取扱業務手当	行旅病死人取扱事務従事者	行旅病死人取扱業務	0 円	1件 1,000 円 " (死亡時) 2,000 円
用地交渉手当	用地交渉業務従事者	用地交渉業務	0 円	日額 150 円

(4) 時間外勤務手当

支給実績 (元年度決算)	33,632 千円
支給職員1人当たり平均支給年額 (元年度決算)	229 千円
支給実績 (30年度決算)	26,481 千円
支給職員1人当たり平均支給年額 (30年度決算)	172 千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績 (30、元年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数 (管理職員、教育職員等制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。) であり、短時間勤務職員を含みます。

(5) その他の手当 (令和2年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (元年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (元年度決算)
扶養手当	扶養親族 (子) 10,000 円 扶養親族 (子) のうち 16歳~22歳まで 5,000 円加算 扶養親族 (子以外) 6,500 円	同	なし	15,337 千円	216,929 円
住居手当	借家等 月額12,000円を超える 家賃を支払っている職員 28,000 円以内	異	手当額	6,411 千円	270,497 円
通勤手当	交通機関を利用して通勤する職員 55,000 円以内 自動車等交通用具を利用して通勤する職員 距離に応じて 35,000 円以内	異	手当額	9,157 千円	65,878 円
管理職手当	管理職員 役職に応じて 45,000 円~ 61,000 円	異	手当額	22,728 千円	582,769 円

5 特別職の報酬等の状況 (令和2年4月1日現在)

区分		給料月額等	
給料	市長	916,000 円	(参考) 類似団体における最高/最低額
	副市長	731,000 円	989,000 円 / 405,000 円 816,000 円 / 512,000 円
報酬	議長	424,000 円	528,000 円 / 327,000 円
	副議長	377,000 円	462,000 円 / 279,000 円
	議員	354,000 円	431,000 円 / 259,000 円
期末手当	市長	(元年度支給割合)	
	副市長	3.40 月分	
退職手当	市長	(算定方式) (1期の手当額) (支給時期)	
	副市長	退職した日の給料月額×5×勤務年数	18,320,000 円 任期毎
		退職した日の給料月額×2.8×勤務年数	8,187,200 円 任期毎

(注) 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期 (4年=48月) 勤めた場合における退職手当の見込額です。

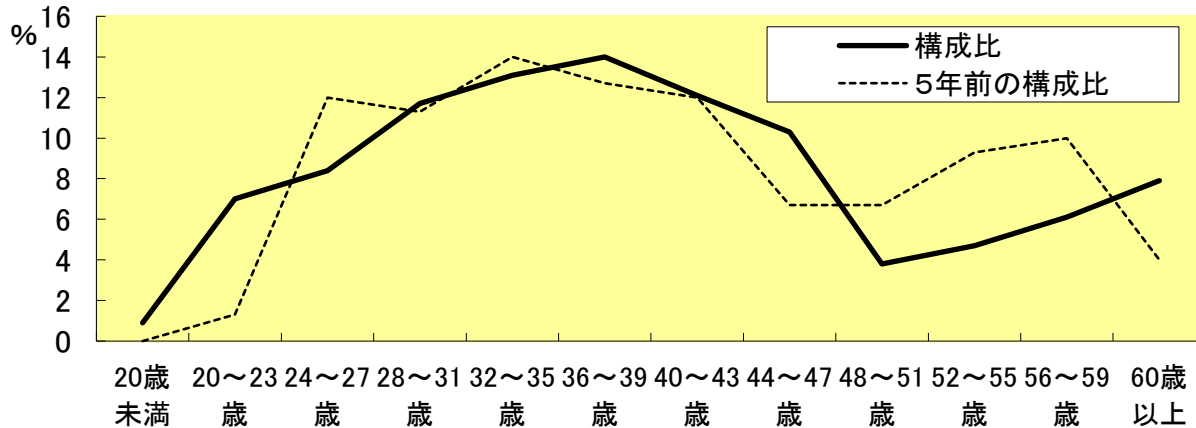
6 職員数の状況

(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由 (国の定員管理調査の基準によるもので、各年4月1日現在)

部 門	区 分	職 員 数		対前年 増減数	主な増減理由
		平成31年	令和2年		
普通会計部門	議会	4	4	0	国土強靱化業務の増加及び出向職員に伴う増 保育業務の欠員補充に伴う増 浄化槽推進業務の精査、効率化等に伴う減 観光政策の精査、効率化等に伴う減 土木業務の精査、効率化に伴う減
	総務	50	52	2	
	税務	11	11	0	
	民生	33	34	1	
	衛生	13	12	△ 1	
	農林水産	11	11	0	
	商工	9	8	△ 1	
土木	18	15	△ 3		
	小 計	149	147	△ 2	<参考> 人口1万人当たり職員数44.17人 (類似団体の人口1万人当たり職員数65.44人)
	教育部門	30	29	△ 1	図書館業務の精査、効率化に伴う減
	消防部門	0	0	0	
	小 計	179	176	△ 3	<参考> 人口1万人当たり職員数52.88人 (類似団体の人口1万人当たり職員数84.11人)
公営企業等	水道	5	5	0	下水道整備促進に伴う増 介護保険業務の欠員補充に伴う増
	下水道	5	8	3	
	その他 (国保、介護 保険事業)	23	25	2	
	小 計	33	38	5	
合 計		212	214	2	<参考> 人口1万人当たり職員数64.30人
		[255]	[255]	[0]	

(注) 1 職員数は一般職に属する職員です。
2 []内は、条例定数の合計です。

(2) 年齢別職員構成の状況 (令和2年4月1日現在)



区 分	20歳未満	20歳	24歳	28歳	32歳	36歳	40歳	44歳	48歳	52歳	56歳	60歳	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
職員数	2	15	18	25	28	30	26	22	8	10	13	17	214

(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

部 門 別	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	過去5年間の 増減数 (率)
一般行政	150	147	149	143	149	147	△ 3 (△ 2.0 %)
教 育	28	24	25	25	30	29	1 (3.6 %)
消 防	0	0	0	0	0	0	0 (0.0 %)
普通会計計	178	171	174	168	179	176	△ 2 (△ 1.1 %)
公営企業等会計計	34	37	35	36	33	38	4 (11.8 %)
総 合 計	212	208	209	204	212	214	2 (0.9 %)

(注) 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数です。

7 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

① 職員給与費の状況

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 30年度の総費用に 占める職員給与費比率
元年度	千円 356,630	千円 83,014	千円 25,001	% 7.01	% 7.46

区分	職員数 A	給与費				(参考) 一人当たり 給与費 B/A	(参考) 市町村平均 一人当たり 給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	千円	千円
元年度	人 5	千円 16,742	千円 1,717	千円 6,542	千円 25,001	千円 5,000	千円 6,165

- (注) 1 職員手当には退職手当を含みません。
2 職員数は、令和2年3月31日現在の人数です。

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（令和2年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
滑川市	38.4 歳	295,300 円	313,852 円
団体平均	44.2 歳	339,529 円	512,723 円

- (注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含みます。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

滑川市（水道事業）		滑川市（一般行政職）	
1人当たり平均支給額（元年度） 1,308 千円		1人当たり平均支給額（元年度） 1,412 千円	
(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.90 月分 (0.90) 月分		(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.90 月分 (0.90) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%	

- (注) () 内は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当（令和2年4月1日現在）

滑川市（水道事業）			滑川市（一般行政職）		
(支給率)	自己都合	定年	(支給率)	自己都合	定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分	勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分
最高限度額	47.709 月分	47.709 月分	最高限度額	47.709 月分	47.709 月分
1人当たり平均支給額		—	1人当たり平均支給額		3,017 千円
		—			23,186 千円

- (注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、元年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

ウ 特殊勤務手当（令和2年4月1日現在）

支給実績（元年度決算）	0 千円			
支給職員1人当たり平均支給年額（元年度決算）	0 円			
職員全体に占める手当支給職員の割合（元年度）	0.0 %			
手当の種類（手当数）	2			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 （元年度決算）	左記職員に対する 支給単価
滅菌薬取扱業務手当	滅菌薬取扱業務従事者	滅菌薬取扱業務	0 円	月額 3,000 円
用地交渉手当	用地交渉業務従事者	用地交渉業務	0 円	日額 150 円

エ 時間外勤務手当

支給実績（元年度決算）	563 千円
支給職員1人当たり平均支給年額（元年度決算）	141 千円
支給実績（30年度決算）	722 千円
支給職員1人当たり平均支給年額（30年度決算）	181 千円

- (注) 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含みます。
 2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（30、元年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含みます。

オ その他の手当（令和2年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 （元年度決算）	支給職員1人当たり 平均支給年額 （元年度決算）
扶養手当	扶養親族（子） 10,000 円 扶養親族（子）のうち 16歳～22歳まで 5,000 円加算 扶養親族（子以外） 6,500 円	同	なし	千円 240	円 240,000
住居手当	借家等 月額 12,000 円を超える 家賃を支払っている職員 28,000 円以内	異	手当額	千円 0	円 0
通勤手当	交通機関を利用して通勤する職員 55,000 円以内 自動車等交通用具を利用して通勤する職員 距離に応じて 35,000 円以内	異	手当額	千円 62	円 31,200
管理職手当	管理職員 役職に応じて 45,000 円～ 61,000 円	異	手当額	千円 588	円 588,000

(2) 下水道事業

① 職員給与費の状況

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 30年度の総費用に 占める職員給与費比率
元年度	千円 1,202,966	千円 224,691	千円 28,076	% 2.33	% 3.09

区 分	職員数 A	給与費				(参考) 一人当たり 給与費 B/A	(参考) 市町村平均 一人当たり 給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
元年度	人 5	千円 17,739	千円 3,472	千円 6,865	千円 28,076	千円 5,615	千円 6,134

(注) 1 職員手当には退職手当を含みません。
2 職員数は、令和2年3月31日現在の人数です。

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（令和2年4月1日現在）

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
滑 川 市	38.8 歳	298,863 円	360,777 円
団 体 平 均	43.0 歳	337,655 円	510,496 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含みます。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

滑川市（下水道事業）		滑川市（一般行政職）	
1人当たり平均支給額（元年度） 1,373 千円		1人当たり平均支給額（元年度） 1,412 千円	
(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分		(元年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分	
勤勉手当 1.90 月分 (0.90) 月分		勤勉手当 1.90 月分 (0.90) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%	

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当（令和2年4月1日現在）

滑 川 市（下水道事業）			滑 川 市（一般行政職）		
(支給率)	自己都合	定年	(支給率)	自己都合	定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	0 24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分	勤続25年	28.0395 月分	0 33.27075 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分	勤続35年	39.7575 月分	0 47.709 月分
最高限度額	47.709 月分	47.709 月分	最高限度額	47.709 月分	0 47.709 月分
1人当たり平均支給額			1人当たり平均支給額		
—			3,017 千円 23,186 千円		

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、元年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

ウ 特殊勤務手当（令和2年4月1日現在）

支給実績（元年度決算）	0 千円			
支給職員1人当たり平均支給年額（元年度決算）	0 円			
職員全体に占める手当支給職員の割合（元年度）	0.0 %			
手当の種類（手当数）	2			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 （元年度決算）	左記職員に対する 支給単価
滅菌薬取扱業務手当	滅菌薬取扱業務従事者	滅菌薬取扱業務	0 円	月額 3,000 円
用地交渉手当	用地交渉業務従事者	用地交渉業務	0 円	日額 150 円

エ 時間外勤務手当

支給実績（元年度決算）	1,555 千円
支給職員1人当たり平均支給年額（元年度決算）	311 千円
支給実績（30年度決算）	1,667 千円
支給職員1人当たり平均支給年額（30年度決算）	278 千円

- (注) 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含みます。
 2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（30、元年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含みます。

オ その他の手当（令和2年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 （元年度決算）	支給職員1人当たり 平均支給年額 （元年度決算）
扶養手当	扶養親族（子） 10,000 円 扶養親族（子）のうち 16歳～22歳まで 5,000 円加算 扶養親族（子以外） 6,500 円	同	なし	千円 744	円 247,841
住居手当	借家等 月額 12,000 円を超える 家賃を支払っている職員 28,000 円以内	異	手当額	千円 301	円 301,114
通勤手当	交通機関を利用して通勤する職員 55,000 円以内 自動車等交通用具を利用して通勤する職員 距離に応じて 35,000 円以内	異	手当額	千円 223	円 74,400
管理職手当	管理職員 役職に応じて 45,000 円～ 61,000 円	異	手当額	千円 0	円 0